

「牟田ふるさと祭」(つわだけ棒踊り披露会) 事業名 (牟田ふるさと祭実行委員会)

概要： 過疎化などの影響で地域の核であった、保育園や小学校が無くなり地域挙げてのイベントも無くなった。このままでは集落の活力や共助力が失われ「故郷」を失う危機感を強めている。そこで、地域に残る郷土芸能「つわだけ棒踊り」の披露も兼ねた「牟田ふるさと祭」を各種団体（オール牟田）で組織した実行委員会を立ち上げて開催する。そして次の世代へ故郷を継承するための推進力となるイベントとして継続し育てて行く。

事業の内容 少子高齢化や過疎化の影響で小学校や保育園が無くなり、若い世代が減り地域を挙げてのイベントも無くなった。その為、地域の維持存続の危機を感じている。そこで、小学生がかかるじて伝承・継続してきた「つわだけ棒踊り」を披露する場として地域が一つになって取り組む「牟田ふるさと祭」を開催する。そして住民の絆や世代間の交流を深め、いつまでもこの集落に暮らし守り続ける地域の推進力になるイベントにする。

総事業費 事業費計 (279 千円) 内訳

仮設電気工事費	48,600	音響設備費	70,000
ステージ看板代	40,000	チラシ他印刷代・その他	120,550

ポイント 世代間交流の希薄化の歯止めのイベントとして、また地域の活力の源のイベントとして「関係人口」の増加、継承に貢献できた。さらには、実施により培われたメンバーの役割分担や連携・助け合いの構築は災害を受けた後にどう地域を維持できるかという「克災」の訓練の場となり、災害時の大きな復興力に活かせると考ええる。

事業の成果： 地域を挙げてのイベントが無くなりご近所や世代間の関係が希薄になっていた地区において、「牟田ふるさと祭」の実施と「郷土芸能」の継承に取り組むことじたいが活性化であり成果となった。また、祭りの実施に伴った様々な活動で自然と世代間の交流が行われ、絆が深まった。さらには、故郷の方々との交流で「関係人口」の増加と継承の大きな力となった。また、継承してきた「つわだけ棒踊り」の価値を地域や市内外の方々と共有でき存続、継承の理解と意義を深め、新メンバーの発掘やメンバーの指揮を高めることができた。

